

# 1 アシクロビル軟膏

## 2 Aciclovir Ointment

3 本品は定量するとき、表示量の95.0～105.0%に対応する  
4 アシクロビル( $C_8H_{11}N_5O_3$ : 225.20)を含む。

5 **製法** 本品は「アシクロビル」をとり、軟膏剤の製法により  
6 製する。

7 **確認試験** 定量法で得た試料溶液につき、紫外可視吸光度測  
8 定法〈2.24〉により吸収スペクトルを測定するとき、波長254  
9 ～258 nmに吸収の極大を示す。

10 **定量法** 本品のアシクロビル( $C_8H_{11}N_5O_3$ )約10 mgに対応する  
11 量を精密に量り、希水酸化ナトリウム試液25 mLを加え、必  
12 要ならば加温し、振り混ぜて溶かし、冷後、水を加えて正確  
13 に100 mLとする。この液15 mLを正確に量り、0.1 mol/L塩  
14 酸試液を加えて正確に200 mLとし、試料溶液とする。別に  
15 アシクロビル標準品(別途「アシクロビル」と同様の方法で  
16 水分〈2.48〉を測定しておく)約20 mgを精密に量り、希水酸  
17 化ナトリウム試液に溶かし、正確に20 mLとする。この液  
18 10 mLを正確に量り、希水酸化ナトリウム試液15 mLを加え  
19 た後、水を加えて正確に100 mLとする。この液15 mLを正  
20 確に量り、0.1 mol/L塩酸試液を加えて正確に200 mLとし、  
21 標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液につき、0.1 mol/L  
22 塩酸試液を対照とし、紫外可視吸光度測定法〈2.24〉により  
23 試験を行い、波長255 nmにおける吸光度 $A_T$ 及び $A_S$ を測定す  
24 る。

25 アシクロビル( $C_8H_{11}N_5O_3$ )の量(mg) =  $M_S \times A_T / A_S \times 1/2$

26  $M_S$ : 脱水物に換算したアシクロビル標準品の秤取量(mg)

27 **貯法** 容器 気密容器。

28 .....

29 **9.01 標準品の(1)の項に次を追加する。**

30

31 アシクロビル標準品